

ベトナムの上場大手銀行決算状況について



《積極的な業績拡大戦略が奏功して好調を維持》

ベトナムの上場大手銀行（2021年12月13日終値ベースの時価総額上位10行）合計の2021年1-9月累計の営業収入は前年同期比27.5%増の223.2兆VND（ベトナムドン）、税引後利益は同37.8%増の80.1兆VNDと大幅な増収増益となっている。営業収入の伸びは、ベトナムの上場大手銀行10行の2021年9月末の貸出債権残高は2020年9月末に比べて18.1%増と拡大していることからみて金利収入がリードしたと考えられる。

6~9月にみられたコロナウイルス感染症の感染再拡大による経済活動の制限導入や、その落ち込みからの回復が緩慢だったことなどから2021年のベトナムのGDP成長率は年率2%に達しない可能性があり、資金需要は停滞が想定される経済環境だった。しかし、ベトナム経済の中長期的な成長ポテンシャルへの期待が不動産を中心とした開発投資（住宅、都市再開発、工業団地等）向けの資金需要を牽引し、貸出債権残高が増加したようだ。また、政策金利が史上最低水準となっていることもその増加を後押ししたと考えられる。貸出債権の増加に伴って貸倒引当金（上場大手銀行10行ベース）は同35.3%増の51.8兆VNDとなった。積極的にリスクをとって業容拡大戦略を進めた結果のようだ。しかし、税引後利益（同）の増加率（37.8%）が営業収入（同）の増加率（27.9%）を上回っているため利益率は改善している。貸倒引当金の増加はその他の費用削減などによって吸収され、積極的な貸出残高の積み上げによる業績拡大戦略は一定の成果を上げているといえよう。

以上のような状況から2021年12月期決算は好業績が見込まれよう。営業収入の前年同期比増減率は2021年1-3月期29.3%増、4-6月期37.9%増、7-9月期16.4%増、同じく税引後利益は2021年1-3月期81.4%増、4-6月期20.7%増、7-9月期17.3%増となっており、高水準の増収増益ペースが続いている。経済は回復基調にあり、期末の決算処理費用発生リスクはあるものの、2021年10-12月期決算も大きく崩れるリスクは低いとみて良さそうだ。

図表1 ベトナムの上場大手銀行の業績動向（単位 10億VND）

銀行名	コード	営業収入			税引後利益(株主帰属分)			貸出債権残高			貸倒引当金		
		2020年 1-9月	2021年 1-9月	前年 同期比(%)	2020年 1-9月	2021年 1-9月	前年 同期比(%)	2020年 9月末	2021年 9月末	前年 同期比(%)	2020年 1-9月	2021年 1-9月	前年 同期比(%)
ベトナムバンク	VCB	34,605	41,842	20.9	12,779	15,457	21.0	766,795	909,911	18.7	6,033	8,013	32.8
テクコムバンク	TCB	19,422	26,917	38.6	8,372	13,445	60.6	228,668	317,689	38.9	2,245	2,037	-9.2
ヴィエティンバンク	CTG	32,170	39,261	22.0	8,323	11,172	34.2	942,889	1,063,142	12.8	11,458	14,004	22.2
VPバンク	VPB	28,326	33,231	17.3	7,517	9,379	24.8	273,164	311,074	13.9	10,303	13,631	32.3
軍隊銀行	MBB	19,648	26,818	36.5	6,332	9,171	44.8	263,845	329,008	24.7	4,193	6,019	43.5
アジアコマース銀行	ACB	12,966	17,593	35.7	5,133	7,174	39.8	294,473	330,911	12.4	694	2,812	305.1
HDバンク	HDB	9,815	12,128	23.6	3,190	4,546	42.5	162,533	189,346	16.5	1,133	1,318	16.3
ベトナム国際銀行	VIB	7,846	10,389	32.4	3,220	4,272	32.7	147,458	185,704	25.9	660	915	38.7
TPバンク	TPB	7,094	9,906	39.6	2,419	3,515	45.3	108,524	131,412	21.1	1,182	2,349	98.8
シーバンク	SSB	3,184	5,148	61.7	887	2,015	127.1	96,736	111,191	14.9	466	798	71.4
合計	10行合	175,077	223,234	27.5	58,172	80,146	37.8	3,285,084	3,879,388	18.1	38,367	51,896	35.3

出所 会社資料などをもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

有効期限作成日より180日

News20211216

主な事業 金融商品取引業

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。

ベトナムの上場大手銀行決算状況について

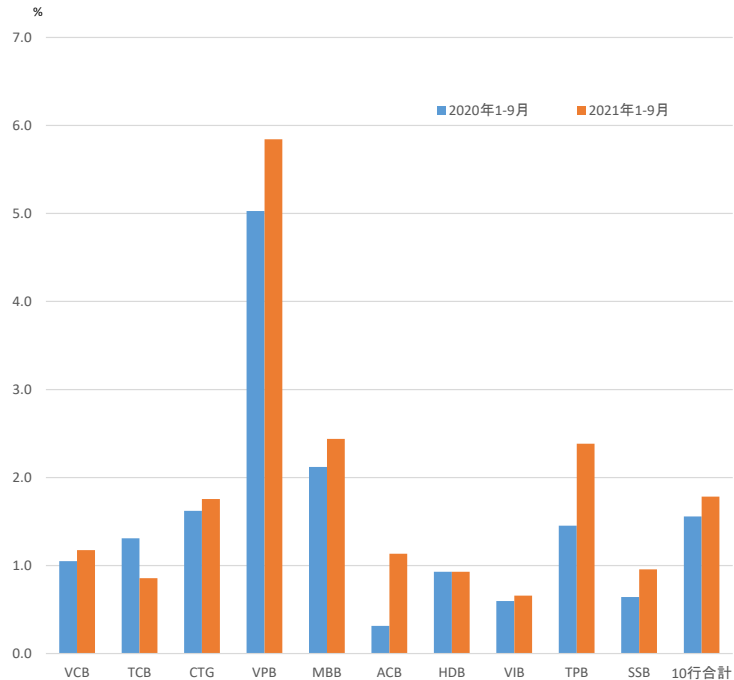


《個別銘柄の状況》

2021年9月末の貸出債権残高に対する2021年1-9月累計の貸倒引当金の比率を年率で換算したものが貸倒比率である。貸出債権残高に対してどの程度の貸倒引当金の計上が必要になったかを示すものだ。図表2でVPバンク（VPB）の貸倒比率が高くなっているが、リスクのより大きい貸出先である中小企業や個人への融資に積極的に取り組んでいるためと考えられる。一方、ベトコムバンク（VCB）やテクコムバンク（TCB）はよりリスクの低い大手企業等を顧客としていると考えられる。

水準より重要なことはその増減ということになる。貸倒比率が上昇すると貸出債権の貸倒リスクが増えていることを意味し、低下すればそのリスクが緩和することを意味する。2021年1-9月累計の時価総額上位10行の貸倒比率の動きをみると、テクコムバンクとHDバンク（HDB）が低下している以外は全て上昇している。ここでも銀行の積極的な融資姿勢が確認できる。しかし、ベトナム経済の停滞が想定以上に長引いた場合、積極的にリスクをとって債権残高を増やし、営業収入や利益水準を拡大させるという営業戦略フローが機能するか、これまでのように貸倒引当金の増加が費用削減などで吸収可能なのか、慎重にチェックする必要がでてくるだろう。2021年10-12月期の決算は2022年12月期のベトナムの銀行業界の業績成長を考えるうえで極めて重要になるだろう。

図表2 個別の貸倒比率の状況



注1 貸倒比率は1-9月累計の貸倒引当金合計を9月末の貸出債権残高で除し年率に換算した数値

注2 個別銀行はティックで表示している（詳細は図表1参照）

出所 各種資料にもとづき当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20211216

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。